

山行報告書

作成: 2010年12月26日

愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	鋸岳(2685m) [南アルプス]	目的[方法]	周回
期間	2010年12月18日(土)~19日(日)	形態	幕営
参加人数	4人		

行動記録:

◇12/18(土) 曇り

岡崎市民病院 PKG(520) ==岡崎IC(530)==駒ヶ岳SA(720,740)==伊那IC(810)==戸台PKG(840,910)一角兵衛沢出合(1140,1200)一大岩下ノ岩小屋 TS(1440) 就寝(1900)

◇12/19(日) 晴れ

起床(230) 朝食,撤収,出発(420)一角兵衛沢ノ頭(720,750)一第一高点、鋸岳山頂(820,850)一鹿窓(1010)一大ギャップ(1100)一第二高点(1200)一中ノ川乗越(1240)O一熊ノ穴沢分岐(1540)一戸台PKG(1810,1830)==仙流荘(1840,1910)伊那IC(1920)==駒ヶ岳SA(750,810)== 岡崎IC(2210)==岡崎市民病院 PKG(2220)

概念図:



日誌:

岡崎市民病院に集合し出発、戸台PKGは河原の広い駐車場だが3台しかいない、去年の年末山行で甲斐駒にきた時は仮設トイレがあったが今回は無い、登山届けを出し出発。だらだらと戸台川河原を歩いていく、3回程渡渉があるが、去年は無かった簡易的な梯子が2箇所架かっていたが一箇所は流されていた。少しは楽になったが苦勞させられる。去年は帰りにNさんが渡渉に失敗し濡れになっている、ストックがあるとバランスをとりやすい。角兵衛沢出合に着き大休止。ここからは傾斜は緩いがずっと上りが続きしんどい、しばらくくと右手に大岩壁が見えてくる、大岩下ノ岩小屋だ。計画では角兵衛沢ノコルで幕営の予定だが、時間と体力を考えここでの幕営とする。他パーティーはいない、寂しい気がするが貸し切りだ。4人用くらいのテントなら3張りは可能、ハングした岩の奥にテントを張れば落石を防げる、水も調達でき岩壁に連なった氷柱がなんともいい感じだ。早めの夕食と宴会を終え19時に就寝。翌朝2時半起床、まだ外は暗いがヘッ電を頼りに出発、ガレ場を詰めるが分かりにくい、コンパスで確認すると、どうやらルートの間違えたらしい、少し戻り目印を捜しているとさんがピンクテープを見つけそちらに進む。途中、氷雪になりアイゼンをつける、やっと角兵衛沢のコルに着き小休止、風が強く寒い。ハーネス、ヘルメットをつけ出発。第一高点(鋸岳ピーク)には30分程で着く。天気は良く、千丈、甲斐駒、北岳の展望が素晴らしい。ここから計画通り長丁場の縦走か、このまま戻りピストンとするか迷うが、Iさんの天気も良いし行こう!の声にのせられ出発、狭い尾根で所々切れ落ちていて緊張する、小ギャップに到着。しっかりした鎖が垂れているがこれを使わず懸垂下降する、底から岩壁の登り返しにも太い鎖が垂れている、重いザックとアイゼンでの岩登りなので苦勞する。登りきると狭いリッジでバランスを崩すと落ちてしまいそう。ここから少し下りトラバースして鹿窓に出るが、積雪し急傾斜で滑落の危険があるのでロープをフィックスし通過する。冬ルートは鹿窓の上の稜線を行くが今回は夏ルートの鹿窓をくぐり第二高点へ行くルートをとった、ここにも太い鎖が垂れていてゴボウで下降する。第二高点への上り返しは膝下くらいの雪がありラッセルを強いられた。核心部は終わり安堵する。下山はこれでもかというくらい下り、ガレ場で浮き石に足を取られ何回こけたことか、今まで一番きつい下りだ。河原が見えたときはほんとにホッとした。途中から日が沈み、ヘッ電を点けての到着となった。

感想:

天気と雪の少なさに恵まれましたが、厳冬期の縦走となると体力的、技術的にも非常に厳しくなると思いました。